

## 舞鶴市社寺へのアライグマ侵入状況

川道美枝子・八尋由佳・間恭子・山本憲一（関西野生生物研究所）

これまでの調査で、アライグマは木造建造物や樹木に登り（写真1）、特徴的な5本の爪痕を残すことが分かった。爪痕の多少によって、アライグマの侵入場所や個体の大小が分かる場合もある。また、古い社寺の柱や袖障子の木材は黒ずんでいることが多いが、爪で引っかかれた痕には木材の白い地色が現れる。爪痕の色の変化で、およその侵入時期の推定も可能である。最初に白かった爪痕は時間が経過すると次第に黒ずんでくる。爪痕が日光や風雨にさらされる位置にあるかどうかで差はあるが、5年で周囲の木肌の色と同じになる。白い爪痕がなければ、最近では侵入していないと判断できる。



写真1. 神社の柱を登るアライグマの子供（青森県弘前市提供）

アライグマは泥や煤のついた特徴的な足型（前足、後足）も柱や壁、長押などに残す。足型は長い5本指が特徴的である。水辺の泥や柔らかい土、雪上にも特有の足型が確認できる。足裏に天井裏の煤をつけたり、雨の後や池や水路から泥足で建造物の床や壁、長押を歩き、足型を残すこともある。建造物に登り、長押の上を歩き回った場合、長押から下向きに足型が付けられることが多い。痕跡は階段や床にもつけられる。同様の指の長い痕跡を残す動物は他にいないので、アライグマと判定できる。

天井裏へ侵入した場合には、ミシツミシツという重い足音をたてる。ネズミやイタチの軽快な足音とは容易に区別できる。天井から雨漏りのようなアライグマの尿が滴ってくることもある（アライグマの尿はほぼ無臭）。鳴き声も特徴的で、クルクルと鳥のような高い鳴き声をたてる。天井裏や壁の裏で鳴き声が聞こえると、アライグマが住み込んでいたり、子育てをしていることが分かる。しかし、社寺の本殿と離れて管理者が寝泊まりしている場合は、物音や鳴き声に気づかずに、アライグマの侵入を認識していない人が多い。

### 舞鶴市とその周辺地域のアライグマ社寺侵入状況

京都府中丹地域（舞鶴市・綾部市・福知山市）で、市内にあるほぼ全ての社寺を対象に2008年から2009年にアライグマの痕跡調査を行った。多くの社寺等は一般に公開されているが、未公開の社寺または未公開場所については、管理者の許可を得た。一般民家は家屋周辺に立ち入ることが難しいため、調査対象に含めなかった。アライグマの侵入被害が酷い場合には、建造物の管理者の同意を得て屋根裏や室内の調査も行った。

調査では以下の内容を記録した。1) 調査日時、2) 調査対象の建造物が存在する住所・地名、3) 社寺等の名称、4) 管理者がいる場合にはアライグマの目撃情報と被害状況の聞き取り、5) 建造物周辺を歩いて目視し、爪痕や手足型などの痕跡と痕跡の多少を、建造物の名称ごとに図面に記録、6) アライグマに特徴的な5本爪痕の確認、7) 爪痕が柱などの下から上までつけられているか、8) アライグマの家屋内への侵入があるか、また侵入経路はどこか、9) どのような被害があるか、10) 管理者等がアライグマの侵入を認識しているかどうか、以上の10項目を調査した。

## 資料 2.

舞鶴市（市面積は 342.27km<sup>2</sup>）ではほぼ全数の 162 社寺（92 神社、69 寺、1 不明）を訪ねた。このうち、122 社寺は管理者が現住していないか（社寺とは別の場所に住んでいるか、兼務で不在である）不明であった。管理者が在住していた 48 社寺では、管理者や周辺地域住民は聞き取り調査に協力的であり、調査を拒否されたのは 1 ヵ所（寺）のみであった。

アライグマの痕跡は全市に広く認められた（図 1）。調査した社寺の 90.1%（146 社寺）に新旧の痕跡があった。42.0%（68 社寺）には新しい爪痕、足型が多く、調査時点で住み着いている可能性が高いと判断できた。

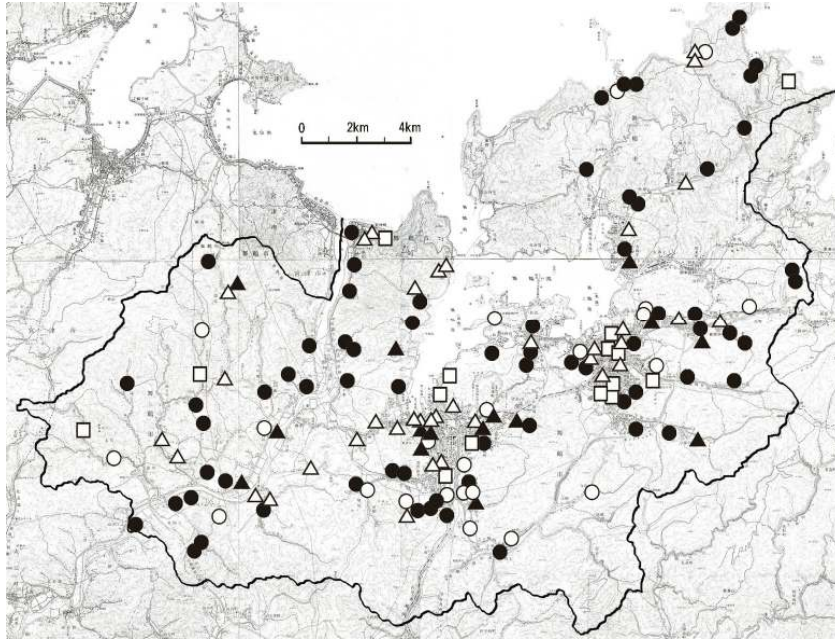


図 1. 舞鶴市社寺のアライグマ侵入状況。●はアライグマが現在侵入している可能性のある場所。▲はアライグマが訪問している可能性がある。○は過去にアライグマが侵入していた可能性がある。△は過去にアライグマが訪問していた可能性。□はアライグマの痕跡が認められなかった社寺（2008 年調査）。複数のデータが重複する場合には点を一部省略した。

2008 年の調査時点ではアライグマに関する市民の関心は低く、聞き取り調査のできた、侵入や訪問の痕跡がある 40 社寺のうち、30 社寺はアライグマが来ていることを知らなかった。しかし、聞き取りでは社寺やそれ以外の目撃情報も複数あった。その内容は「2005 年ころに中筋小学校の木にアライグマが登っていたのを見た。」「2006 年、屋根裏をアライグマが走り回っていて、登り口の柱を取ったらいなくなった。」「2005 年に駐車場の溝の土管内で 2 匹のアライグマがにらみ合っていた。」「2003 年か 2004 年頃に近所をイヌの散歩中にアライグマを見た。」「2008 年金屋町寺前の溝でアライグマを良く見る。朝と晩に見る。」「2005 年か 2006 年、屋根裏をばたばた音がするので見てもらったら屋根裏に糞がたくさんあった。穴を大工さんに塞いでもらってもすぐに穴があいていた。天井にはシミがある。」「お寺を出たところの溝でアライグマをよく見る。」「2008 年のお盆頃、本堂の下から出たアライグマの親子（子供 1）を見た。昨年か娘が天井裏から音がすると言っていた。」「2005 年に天井裏にアライグマがいたが今はいない。出入りの穴をふさいでからは春になっても音はしない。」「2003 年か 2004 年に、立替前の自宅の縁の下でアライグマを見た。住み着くから早く壊してと周りから言われた。10 年ぐらい前から（1998 年ころ？）この辺にいるという人もいる。」「寺にはアライグマが出ていて、おしっこをするじゃーっという音がするらしい。」「2006 年に本堂の縁の下でアライグマが子供を産んでいた。本堂の屋根裏から音がする。」「東舞鶴駅付近の森町ではアライグマがよく走っていると聞く。」「2007 年に社務所の天井からやかんで水をあげたぐらい、ざーっと流れてきた。それで天井裏を調べたらおしっこと糞を大量にされていて臭かった。市から罾をかけてアライグマを捕まえた。」「近所の家ではよくアライグマが出たと言って話題になる。」「アライグマは近くでよく見る。」「2008 年からアライグマの箱罾をかけていて 3 匹入った。最近も屋根裏で走る音がするので、3 日前に罾をかけてもらった。2003 年か 2004 年からアライグマがきている。以前はお堂に入っていたが大工さんに屋根の穴をふさいでもらった。」「近所の人がアライグマが近くを歩いているのを見ている。近所の古い蔵にアライグマがいる

## 資料 2.

のではないかという話。」「2006 か 2007 年にゴミ置き場でアライグマを見かけた。2006 年の冬、庭の松に大きなアライグマが登っていた。水をかけたり、花火を投げつけたりしたらいなくなった。2006 年の夏に本堂のシロアリ駆除をしたときに、縁の下からからからした糞があった。今は縁の下は網を張っている。2002 年ころにお寺横の幼稚園をアライグマがうろついていた。2008 年夏に近くの小さな神社（朱塗り）の本殿にアライグマが座っていた。このあたりではアライグマがよく目撃される。」「2003 年か 2004 年に 7 頭のアライグマが拝殿の天井に住み着いていて、夜に柱をたたくと穴から顔を出していた。金網などをはったらいなくなった。拝殿の天井はアライグマの糞尿で抜けてしまい修理した。本殿の屋根の上で糞尿をして壊された。」「何年も前にお寺の裏をアライグマが歩いているのを見た。最近天井裏で夜になると音がする。以前、池の鯉を何かの動物に食べられたことがある。タヌキのような形の動物にアヒルの雛を何匹も山に引きずって持って行かれたことがある。」「このあたりではアライグマを良く見て、3 日ほど前も（2008 年）近くをアライグマが通った。家の裏の柿を食べて 2F から怒鳴ったら山に登っていった。犬の方がおびえている。」「向かいの家はアライグマがよく来るという話。最近はこのあたりでもよく見る。」「2005 年から毎年天井裏でアライグマが子育てをしている。1 回毘でとってもらった。」



「自分の家の納屋に 2007 年アライグマが入った。入り口の穴をふさいだのでもうこない。」「本堂の天井裏で時々ゴトゴト音がしてゴミが落ちてくる。2005 年に近くのニワトリ 8 羽が食べられた。このあたりの道路で 2 匹のアライグマが交通事故で死んでいた。」「2006 年、2007 年の夏に玄関上に天井裏からアライグマが顔をのぞかせていた。」などである。

市民からの聞き取り情報によれば、1998 年ころにはすでに目撃があったらしいことから、舞鶴市へのアライグマの侵入はかなり早い時期にあったと考えられる。

写真 2. 2008 年の調査時に西舞鶴の神社の軒から顔を出したアライグマ

調査の際、調査員は神社の軒の破れ目から顔を出すアライグマを目撃した（写真 2）。この神社では「神社によく来る氏子さんがアライグマはいると言っていた。」という聞き取り情報が得られている。

### 舞鶴市にアライグマの侵入はどのように起こったのか

アライグマの日本での最初の野生化は、1962 年愛知県犬山市の施設で飼育されていた個体が逃げてからと言われる。その後、1970 年代後半に放映された連続テレビアニメ「あらいぐま ラスカル」が人気を呼んだことも影響したのか、ペットとして多数が北米から輸入されるようになった。2000 年に狂犬病予防法により、アライグマの輸入がほとんど停止したが、それまでは、ほぼ自由にアライグマの輸入が可能だった。記録が残っていないため、どのくらいの数のアライグマが日本に輸入されたのかは明らかではない。

現在 47 都道府県総てでアライグマの野生化が確認されているが、分布の広範囲さを考えると、同時的に各地で野生化が起こったと考えられる。アライグマは 1 才をすぎると、乱暴な行動をするようになる個体が多く（おとなしい個体もいる）、ペットとして飼育されていた個体を山野に放した人が多くいたらしい。特にアニメでは、持てあました少年がラスカルを山に返して「ラスカルは幸せになりました」という終わりかただったため、それに倣った人も多かったのだろうか。各地で繁殖しはじめたアライグマは農作物を荒らしたり、家屋侵入を繰り返した。中丹地域で最も早くアライグマが確認されたのは、1997 年綾部市の寺である（写真が撮られた）。

実際、聞き取りのように、舞鶴市の市民もアライグマの家屋侵入に悩んでいた人も多い。各地でアライグマに困って違法に捕獲し、別の町に放した事例や、行政担当者が捕獲されたアライグマを「奥山放獣」した事例も多数ある。舞鶴市での聞き取りで「昔、母親がアライグマを飼っていたが、飼えなくなり動物園に引き取ってもらった。」という証言もあるので、各地で飼育されていたアライグマが放されたのであろう。

2005 年に外来生物法が施行されてから、アライグマの再放獣は禁止され、捕獲され

## 資料 2.

たアライグマは殺処置されることになった（例外的に飼育が許可される場合もある）。多くの地域で捕獲数は年々増加傾向にある。

### 舞鶴市のアライグマの現状

舞鶴市は2012年時点で246基の罠を所持し、全域で徹底捕獲をしている。捕獲数から見ると対策の効果が現れているようである。捕獲数が減ったことについては、罠にかかりにくくなった個体が増えたためかもしれないという反論もあるかもしれない。しかし、農業被害がかなり減っていることは確かである。また対策成果を示す結果かもしれないが東舞鶴市東南部にある神社を2008年10月に調査したところでは、納屋、拝殿、覆い屋根の柱に新旧の爪痕が多数あり、軒下には天井裏に入れるすき間があった。しかし、2012年8月の再調査では総ての爪痕痕跡は古くなっていた。2008年に痕跡調査をした162カ所の社寺でアライグマ痕跡を再調査することで、アライグマ対策が上手く進んでいるかどうかを明らかにできるかもしれない。それは、今後の課題である。

### 他の中丹地域

2009年、綾部市(347.11km<sup>2</sup>)の調査では、ほぼ全数の181カ所(105神社、76寺)の社寺を訪ねた。そのうち、122社寺は管理者が現住していないか、不明であった。管理者が在住していたのは59社寺であったが聞き取りを行った管理者や周辺地域住民は調査に協力的であり、調査を拒否されたのは1カ所(寺)のみであった。

綾部市もアライグマの痕跡は全市に広く認められた(図2)。91.2%(165社寺)に痕跡があり、43.1%(78社寺)に新しい多数の爪痕や足型があり、現在も住み着いている可能性が高いと判断できた。

綾部市では痕跡があった社寺のうち、対面調査ができた59社寺のうち、侵入に気づいていたのは25社寺(42.4%)であった。舞鶴市と綾部市でアライグマがいつごろから侵入したのかははっきりしないが、綾部市では1997年5月、高津町の隠龍寺で柱を登り堂内に侵入したアライグマが撮影されたことから、綾部市へのアライグマの侵入はかなり古い時期からあったことが分かる。綾部市のアライグマ認知度が高かったのは、綾部市の方がアライグマの侵入時期が早かったことを示すのかもしれない。

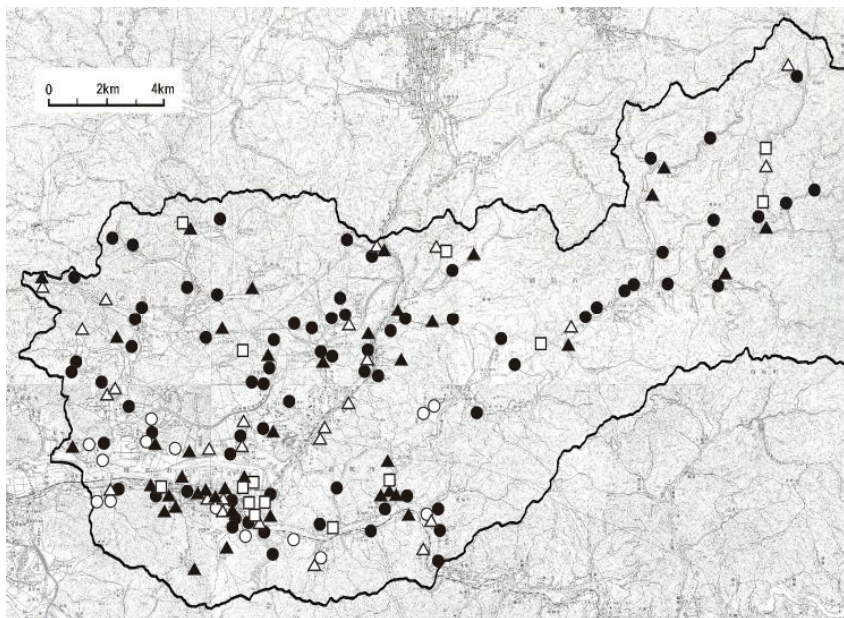


図2. 綾部市社寺のアライグマ侵入状況。●はアライグマが現在侵入している可能性のある場所。▲はアライグマが訪問している可能性がある。○は過去にアライグマが侵入していた可能性がある。△は過去にアライグマが訪問していた可能性。□はアライグマの痕跡が認められなかった社寺(2009年調査)。複数のデータが重複する場合には点を一部省略した。

2009年、福知山市(552.57km<sup>2</sup>)の調査では、ほぼ全数の199カ所(123神社、76寺)の社寺と城1カ所を訪ねた。そのうち、聞き取りを行った管理者や周辺地域住民は調査に協力的であり、調査を拒否されたのは4カ所(寺)のみであった。福知山城にも侵入痕跡があった。

福知山市もアライグマの痕跡は全市に広く認められた(図3)。90.5%(180社寺と

## 資料 2.

1城)に痕跡があり、74% (147社寺と1城)に新しい多数の爪痕や足型があり、2009年時点で住み着いている可能性が高いと判断できた。

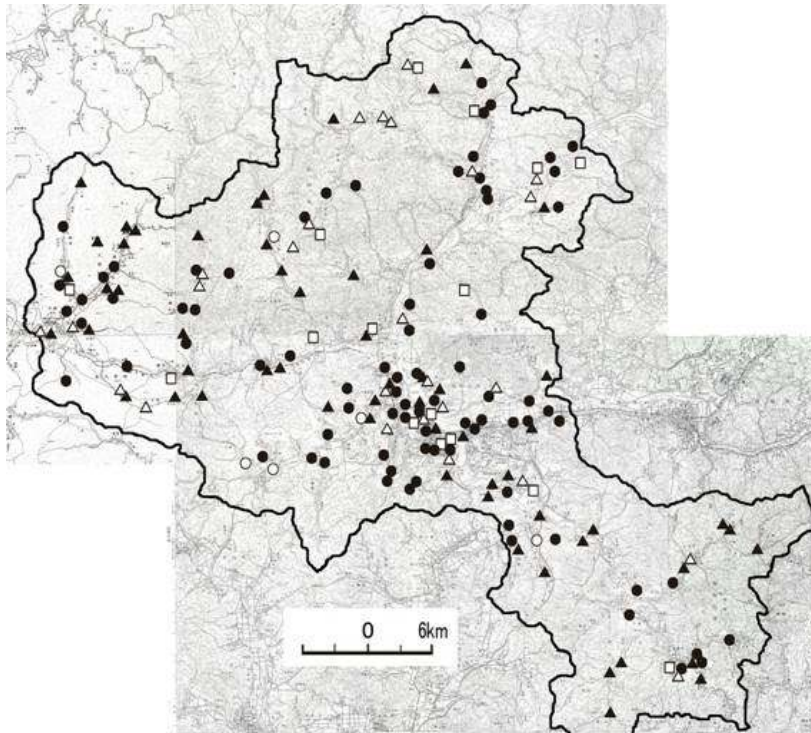


図3. 福知山市社寺と1城のアライグマ侵入状況。●はアライグマが現在侵入している可能性のある場所。▲はアライグマが訪問している可能性がある。○は過去にアライグマが侵入していた可能性がある。△は過去にアライグマが訪問していた可能性。□はアライグマの痕跡が認められなかった社寺(2009年調査)。複数のデータが重複する場合には点を一部省略した。

### 舞鶴市、綾部市、福知山市の比較

2008年から2009年の調査時に新しい痕跡があったのは舞鶴市が42%、綾部市が43.1%であったが、福知山市は極めて高率の74%であった。これら3市はいずれも市内全域にまんべんなくアライグマの痕跡が認められた。福知山市の寺では2009年、1年間に30頭捕ったという聞き取りがあった。福知山市に特に多いという理由は不明である。福知山市に隣接する兵庫県の市町にもアライグマの痕跡が多いから、どちらかでも増加したアライグマの分布拡大も示唆される。大きな地域を視野に入れた総合的な対策も求められている。

### 参考資料

アライグマとハクビシンの全国捕獲数 (環境省統計資料より)

<<http://www.sizenken.biodic.go.jp/wildbird/flash/toukei/07toukei.html>>

	アライグマの全国での捕獲頭数					
	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
外来生物法	0	0	3,899	8,179	10,329	13,791
有害駆除	3,060	4,418	6,233	2,590	3,792	4,227
狩猟	221	254	257	418	400	339
合計	3,281	4,672	10,389	11,187	14,521	18,357
	ハクビシンの全国での捕獲頭数					
	有害駆除	1,280	1,819	3,463	2,918	5,217